

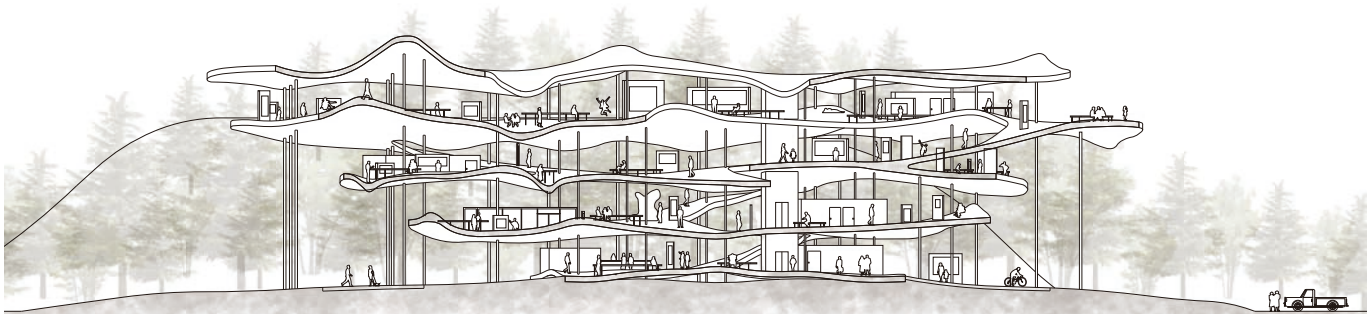
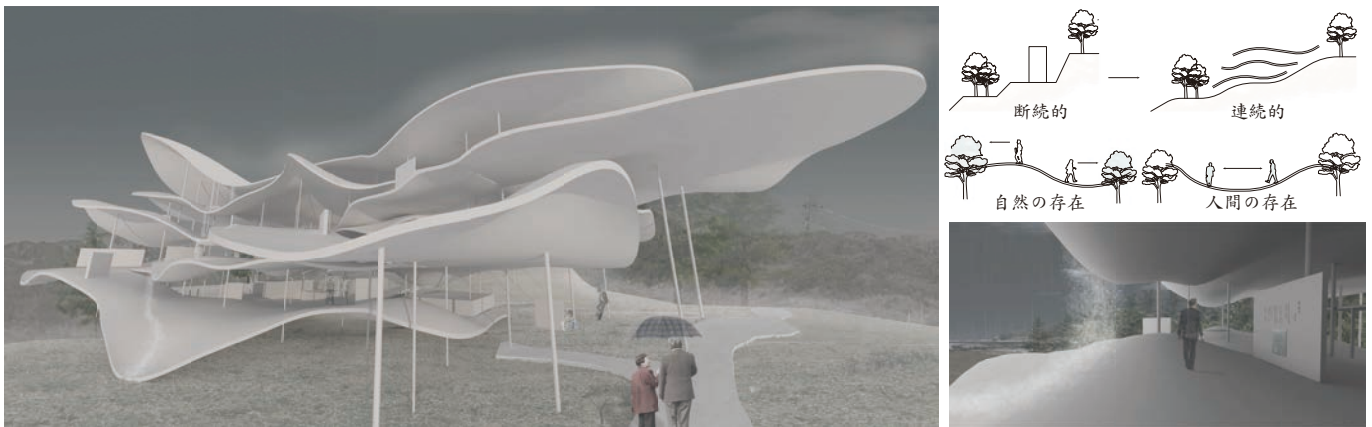
城ヶ島の雨

自然と文化を空間体験する施設の提案

山家・上野研究室 黒柳 和大

研究概要：震災を通して人間というものは自然を構成する一要素に過ぎず人間も一動物なのだということを痛感した。自然再生や自然保護の重要性がしばしば語られる今日、自然との関係性を考え直すべきであると考え。そこで自然を構成する一要素としての人間の視点から自然を感じ自然との距離を近づける空間を提案する。

研究目的：自然と人の存在を強く感じるような空間で操作したことに対し、そこに北原白秋の詩を通して歴史的文化的変化の人の時間軸。そして、広場から断層へと流れる雨が育む芝の生成過程という自然の時間軸を対比させることで、この場で感じる空間体験が自然の中に生きる人間のあり方を深く考える場となることを目的とする。



苦勞した点や感想など：自然に対して人がどのように接するべきなのか、どうあるべきなのか。卒業設計をととして自然という大きな括りの中で考えたことも無いことに焦点を当てることできた。自然に対する考え方は未だ定義するまでに及ばないが、環境汚染や自然破壊など多くの環境問題が重要視されるなかで自然をテーマに考えることも自然であると思った。